

兵要 日本地理小誌故事譚卷之三

山陰道總論

脣齒相依

左傳ニ所謂輔車相依脣亡齒寒

此語所謂

トアレバ春秋已前ノ語ナラン本
文二句ヲ保セテ一句トセリ輔ハ

ホウ車ハシ 山陰ハ山陽ト互ニ
タアゴナリ 相持アフ眞鏡ノコ

トシト
ナリ

地利ノ人和ニ及バザル 孟子ニ
地利不

和人 地ニ山河險固ノ利アリ
和 人心一致ウチ和シテ保守

スルニハ
及バズ

彷彿

説文ニ見サモニク
不審也 リト訓ス

社稷

禮記社稷社ハ土地ノ神
左宗廟 稷ハ五穀ノ神

丹波誌

角入 カクニラ 地理全志角者彈 カクニラ 此意ヲ假リ

丹後誌

相若ケリ カクニラ 韓文二年 似ヨリ 相若也 タルナリ

但馬誌

黄白 カクニラ 明史ニ太監李廣欽樂死得 賄薄黄白米各百十石左右曰

隱語耳黄者 キンギンノ名生野 金白者銀 ノ山ヲイフ

因幡誌

兄タリ難ク弟タリ難シ カクニラ 漢書紀 謀之子

問其父優劣於其祖定曰元 方難為兄李方難為弟

イツレヲ兄イツレヲ弟 トモナシメカタシ

尊攘 カクニラ 尊王攘夷近世之熟字 孟子ニ 尊王賤霸禮ニ左右攘辟王室ヲ

尊トビ 夷狄ヲハラフ

伯耆目誌

圭角 カクニラ 二程全書ニ有 角ト云ニ同シ 英氣便有些圭角

之二舟シ之ニ方 カクニラ 詩ニ就其深矣 加之舟之博ニ

方心 十余ノ水ノ深キハ舟浅キハ 茂也 方ニテワクルニトツ

裳ヲ褰ゲテ涉ルベシ カクニラ 詩ニ裳褰 涉

ソノ極メテ細流ハツマカ ラゲシテカナワクルベシ

自フ失フ カクニラ 詩ニ永失 自ガ心ニ陣没 スヘシトヤク

ソクテ ナス

出雲誌

千早振 カクニラ 神ト云ノ料ニ置ノ枕辞ナリ 千早ハ疾速ノ意ニメイチハ

ヤノツノ振ハ震ニテフルキオコ スナリ言ロハ神徳ハ疾速ニノ變

ナラズ其威靈ノ震ヲ 萬物感動セザルナシ

蠶食 韓非子二諸候 蚕ノ桑ノ葉ヲ食フカ如

ク次第々ニ敵 地ヲトルヲイフ

石見誌

石見國如硯竹生嶋似笙

梁田蛇巖武藏人工詩一日小集人以石見國求對蛇巖應聲朗吟竹

生二字ヲ併シテ一字トナセシ島對句ニシテ固ヨリ形容セシ

ニ非ズ致ハ 言ヲマシズ

滑稽 史記ニ滑稽多智ヲド 註ニ言非若是ケ也

安置 史記ニ置ヲシコメノニルキナリ

隱岐國

一拳石 中庸二一卷石之此語意ヲ假リシナ

石ナリ

山陽道總論

坦ニノ蕩々 論語ニ君子蕩ハ坦而蕩々 大ナリ

炯々 懲忿録ニ目ノノヒカル光炯々射人カクチ

備安 諸葛亮出師表ニ漢賊不兩立王業不偏安

カクヨリテワツ カニヤスンズ

東隅ニ失ノ又桑榆ニ失フ 光武

勞馮異曰失之東隅收之桑榆 註ニ日出必自東方桑榆木名詔

晚平氏京城ヲ奔シハ已ニ失策也クリ而メ西海据テ失ヒ馮異

ニシカサ ルヲイフ

播磨誌

雞犬ノ聲相聞ユ 陶淵明桃花源之記阡陌交通

雞犬 相聞 トリイ又ノ声々相互ニキコエ又邑ハナシ

其然リ豈其然ラン 論語ニ其然

豈其 ソウテアラフカイヤトウ然乎 シテソウモアルマジトノ意

美作誌

巨人ノ武 史記ニ素丹見巨人跡心欣然踐之詩ニ履帝武敏

巨ヒナル 人ノアシアト

貳 左傳ニ貳於己 杜註ニ兩屬也 フシゴノロナリ

備前誌

稍贏リ 稍輸ク 正字通ニ凡攻戰博筭勝曰贏

負曰 南半ハアマリテ北輸 羊ハアマリナシ

備中誌

甲部ニ浮ビテ海ニ達ス 禹貢ニ浮于淮

泗達于河上文ニ其田ハ上ノ上ト禹貢ノ字ヲ用ヒタル語脈ヨリ亦

同篇ノ字ヲ用ヒシノコ

備後誌

困蹙 困木不得申也 蹙急迫也 ム負

安藝誌

觸躓 莊子ニ莊子之楚見空觸躓 サレカ フベ

已ニ觸躓ナリ臭梁チ比ルニ由ナニ然レ血觸躓トモ云アレバ其類

ナラ

周防誌

佻儻 莊子ニ疇儻承明 佻短極也當作疇左傳ニ一命而儻ヒ

カノム 負チ

長門誌

銀沙落日無王氣血戰餘聲耳

有怒潮

友人云盛詩十家集中之句而未得其書使佗日シラス

ナタ日王者ノ氣ナシハゲシキ戰ノナゴリノ聲々々怒ガ如キナミ

ノ音

海ヲ踏テ崩ズ

魯仲連曰有踏東海而北取

海ヲ踏ムコ、ニ取レリ 評註ニ外史ノ旋ノ字ヲ引テ痛ク本文ヲ

駁セリ是旋ヲ還トセシヨリ起レリ外史氏言ズヤ西遊長門過檀浦

觀平氏覆滅之處ト此數語以テ斷案トナスニ足レリ

南海道總論

斗絶

史記成山斗入海註ニ謂斗絶曲入海也 斗當口切

カケバナレ
メル貞子

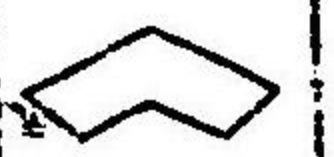
梟雄

吳志ニ劉備マケダシ有梟雄之姿ト貞子

紀伊誌

砦ノ如シ

論語ニ有心哉擊乎砦乎朱註ニ樂器



形狀圖ノ如シ故ニ并礼ヲ砦拆ト云如砦之背ト是ナリ石

ニテ金ノ如キ音ヲ出ス今モ間下リ淨屠氏ハ銅ニテ鑄テ用ウ

飛流直下其幾千尺

李白カ詩ニ飛流直下三

千尺疑是銀瀑ノスサ
河落九天マシキ貞

猖獗

字彙ニ賦勢猖獗康熙字典賦作賊者為正マルナリ

淡路誌

恹ハズ

漢書ニ未有オモキアハスナリ

阿波誌

盤旋

蜀江ニ峽中水波圓折不定者名曰盤亦作旋

旋渦ノ

マシコト

落滌

吾學編ニ琉球國西有澎湖島海水漸低謂之落滌舟行誤入者百

無一 水クボクナリテ
及 極ノテ危険ナリ

尾閭 瀧環志畧ニ葱嶺以西之水ハ以
雷轟海為尾閭五音集韻ニ水聚

族之處 ヒキク水ノ聚マルト
在扶桑東 コロ尾閭ハモト洋中

ノ大石
ノ名

讚岐誌

東風不與周郎便

唐杜牧赤壁之
詩前聯云折戟

沈沙鐵羊鎗自將磨滅認前朝木文
即第三句也然句則云フ銅雀春深

鎮二 周郎ハ東山道然論ニヒク
喬 吳ノ周瑜ナリ曹操ガ八十

萬ノ水軍ヲ赤壁ニ逆ハ焚テ之ヲ
殲スコノ時方ニ冬ナルニ幸ニ東

風フケリ故ニ便ト云我經
大ヲ行宮ニ擬ツニタトフ

節度 易ニ節以制度
借曰法度 ゲチ
ナリ

伊豫誌

碁子ヲ排ス

排安置也漢書ニ
推排成列中庭

黑白ノ碁子ヲオ
シナラヘシコトク

土佐誌

虧缺

說文ニ器ノカハカケ
破也 ノルニ喻フ

櫛比

詩周篳二共
比如櫛 シシノハハナラ

土佐日記

紀實之知此國而任
滿選于京之記

西海道總論

鉗制

漢書ニ自髡鉗為王家
奴註ニ鉗以鐵束頭也 ツナギ

制トフス
シ如クニ

孫仲謀

吳主孫權字仲謀
聖之子策之弟

繼嗣皆豚犬

曹操屢加兵於權不得
志操歎曰生子當如孫

仲謀向者劉景昇
兒子豚犬耳

ヨツギニ器量
ナクノ豚犬ノ

コノゴト
シトナリ

眼中已二人ナキ
カシウス
庖丁目中
ホウテイチュウ
無釜
ナクカマ
敵
テ

ヲ人トモオモハストナリ。
龍伯ハ島津義久削髮ノ名

輜畧
トウリヤク
輜同輜
トウ
所謂六韜
ソウイハク
豐公ノ軍
トヨキミノイクサ
旅ニ長ク
ツリニナガク

ルヲ
イフ

土ヲ卷
ツチヲマク
卷與捲通
マクニマクニツラシ
史記ニ
シキニ
諸邦數十
シヨクノクニ
萬ノ兵卒
マンノヘイソウ

輜ヲ卷シ如ク
率ナシナイフ

面縛
オモテバシ
左傳ニ面縛
サマシ
銜壁杜註ニ
ツツ
縛手於後唯見其面

自ラウシロ手ニ縛ル降ノ礼
皇國ニ留テ脱ト云ガゴトシ

源々
ゲンゲン
孟子ニ故源々而來
コノゲンゲンニキリ
朱註ニ
シ
源々若水之相繼也

神州ノ右臂
シンシュウノウデ
瀛環誌畧東洋ニ國
テイワントシヨク
誌ニ蓋神州之左翅

也 此語ヨリ始出
シ來レリ

筑前誌

荐食
センシク
借以為獲
カサヒ
シキリニ
ハム

筑後誌

彭祖
ヘウソ
彭姓祖名楚國人
ヘウシヤウ
武内宿禰
タケウチノヤスヒ
壽得八百歳
スミヤクヤシ
三百十七

歳ナル
ニ比フ

周公
ヘウキウ
文王子負成王朝諸侯
ヘウキウノミコ
胎中天
ヘウキウノミコ
皇ヲ補

佐セシニ
壁フ

伏波
フツハ
漢武帝雅置伏波將軍
ヘン
我取於意
ガク
伏鳩波瀬後光武拜馬援此官以

為專馬 宿禰カ三韓ヲ征スル
援之事 馬氏ガ勇健ニ彷彿スリ

豊前誌

相拘
サウコウ
兩手屈指曰拘曲指ニ
サウコウ
受珠王者以拘
ウヅノミヤノヲコウ
半開

ニク
トフ

豊後誌

濫觴 家語ニ其源 水カニテ
可以濫觴 イフ大河モ

衆流ノ末ヲ合サル源泉
ハ觴ヲ溢フル小流ナリ

再ビ播 書禹貢ニ又北播為九河
同為逆河入于海蔡傳ニ

河上播而為九其 此語勢ヲトル
分播合同 故ニ下兩河ト

為テ海ニ入ルノ
字アリ

肥前誌

孔雀東南飛 焦仲卿妻古詩ニ
孔雀東南飛五里

一ニ表 字ノ如シ古
徊 辭ノ長篇也

肥後誌

桃花流水別天地 李太白山中聞
答ニ桃花流水

杳然去別有 桃ノ花サカリ清キ
天地非人間 タニノ流レ世上ノ

天地トハ別ナル如シ平氏ノ逃レ
シ五家ノ莊ハ桃花ト同シトナリ

冷皎轉々 或曰皎當作
殊覺大是 波ニキラシク

日向誌

亂峯參差 參差不齊相詩
周南參差荇菜

乱峯ノタカビシアリテ
ソロハヌ貞チライフ

大隅誌

行潦 路上流水也詩大
雅ニ澗酌彼行潦 潦ニハタ

大雨ノトキ急ニ流ルノ水也
川々ニナ浅キヲイフ

薩摩誌

相抵 説文ニ牴觸 羊ノ角ノ
也相觸也 フル貞チ

水程二更 瀛環誌畧日本誌ニ東西
對峙水程四十更自註ニ

六十里 大凡六里フナチ
為更 ノコトハノミ

附琉球誌

二十五紀 書二歴 紀十二 年ナリ

二島總論

夷徼 史記二南王特柯為徼註二徼塞以木柵冰為邊界

流環誌畧 エビスノサカキノサク

邊塞 禮王藻二其在邊邑註二九州邊鄙之邑庚韻二塞邊界也月令備

邊境 亦エビスサカキ

壹岐誌

滄海ノ一粟 蘇武赤壁賦二渺滄海之一粟

ヒロキ滄海バラニ粟一粒ウカブカゴトシ

對馬誌

儂指 荀子ニ未指ヲ儂カソフ

北海道總論

咽喉 戰國策二韓天下咽喉 ノドクビ

口碑 初學記ニ篤文人々口々ニ語於石此曰碑 傳ヘシラザル

モノナキ猶碑ノコトシ

隗囂 東漢末起兵據天水自稱西州大將軍光武征之囂奔志憤而卒

尉陀 西漢十一年三南海尉陀為南粵王陀木姓越行南海尉事故曰尉

佗自潛王 二人僞号

事ヲ好ム者 孟子ニ好所謂好事者為之 家ナリ

君子居之何陋之有 論語ニ子欲居九夷或曰

陋如之何子曰 從令鄙陋ノ地

君子云々 リ氏君子モシ居

渡島誌

估帆 流環誌畧ニ我
之估帆注 アキナキ
フネ

石狩誌

荒ヲ包レ 書禹貢ニ五百里荒服茶
傳ニ荒流野也○易ニ九

二包荒 中國ノハテ夫狄ノ
包容也 地ヲサシテイフ

遠キヲ遺レザル 孟子ニ武王不
遠近不遺遠

朱註ニ遠者 遠國トテ
人所易忘 モステズ

天鹽誌

萑葦茫茫 詩豳風八月萑葦
○茫茫廣大貌

ヨシヤ。アシナド。
ハテモナシ

一年ニ聚ヲナシ二年ニメ

邑ヲナス 真年所居成聚二年為邑○
史註ニ聚村落也周禮ニ四

井 マナクソノ處サカシ
為邑 ナルニ至ルヘシトナリ

十勝誌

欸乃ノ声 柳子厚漁翁詩ニ
煙梢日出不見人

欸乃一聲山水綠 フナ
○欸音換乃音爲

古人魚ヲ棠ニ矢又 春秋隱五年
ニ公失魚于棠

古人即魯隱魚漁也
失陳也棠地名

其觀 同年傳ニ 漁リヲサセテ觀ル
觀魚者、古人ヨリ然リ何

之ニ過ンヤ

釧路誌

船入菱荷香處去人從雲水國

中還 或曰梁星殿詩今就其集索之而
不得俟他日訂船ハ菱ヤ荷ノハ

ナノ香キ處ヘサホサシテ入去リ
マシ人ハ雲ト水トヒーツナルコ

トキ國ヨリ還
リキムレリ

根室誌

關ヲ發セザル弓ノ如シ孟子ニ

射之又曰君子 引而不發 弓ヲヒキテ未ダ ツルヲキラス

千島誌

大造易ニ大人造也造為也 大ナルイ サホシ

樺太誌

北溟有魚其名爲鯢莊子逍遙遊云々列子亦

曰有魚焉其廣數千里長稱焉 其名曰鯢○刺寓言不待辨

今コノ鯢ノ浮泳ヲミレハ我北溟ニモ 鯢ノコトキアレバ古人ヲ信ストナリ

維石巖々詩小雅二節彼南山 維石巖々○巖々高貌

大透ノ岩山ヲ 形容セシナリ

隴ヲ得テ又蜀ヲ望ム東漢公孫述據

蜀桓帝先代既平隴右曰人苦不自 足既得隴復望蜀 魯人ノ厭ルヲ

知ラザルニタトフ

一彼一此孟子ニ彼一時也此一時也

校焉左傳ニ夫校焉思啓封疆以利社 稷者何國蔑有註ニ校擗之人

コレモ亦魯人ヲ指ス

北門ノ鎖鑰通鑑宋真宗紀ニ以寇 準知天雄軍契丹使嘗

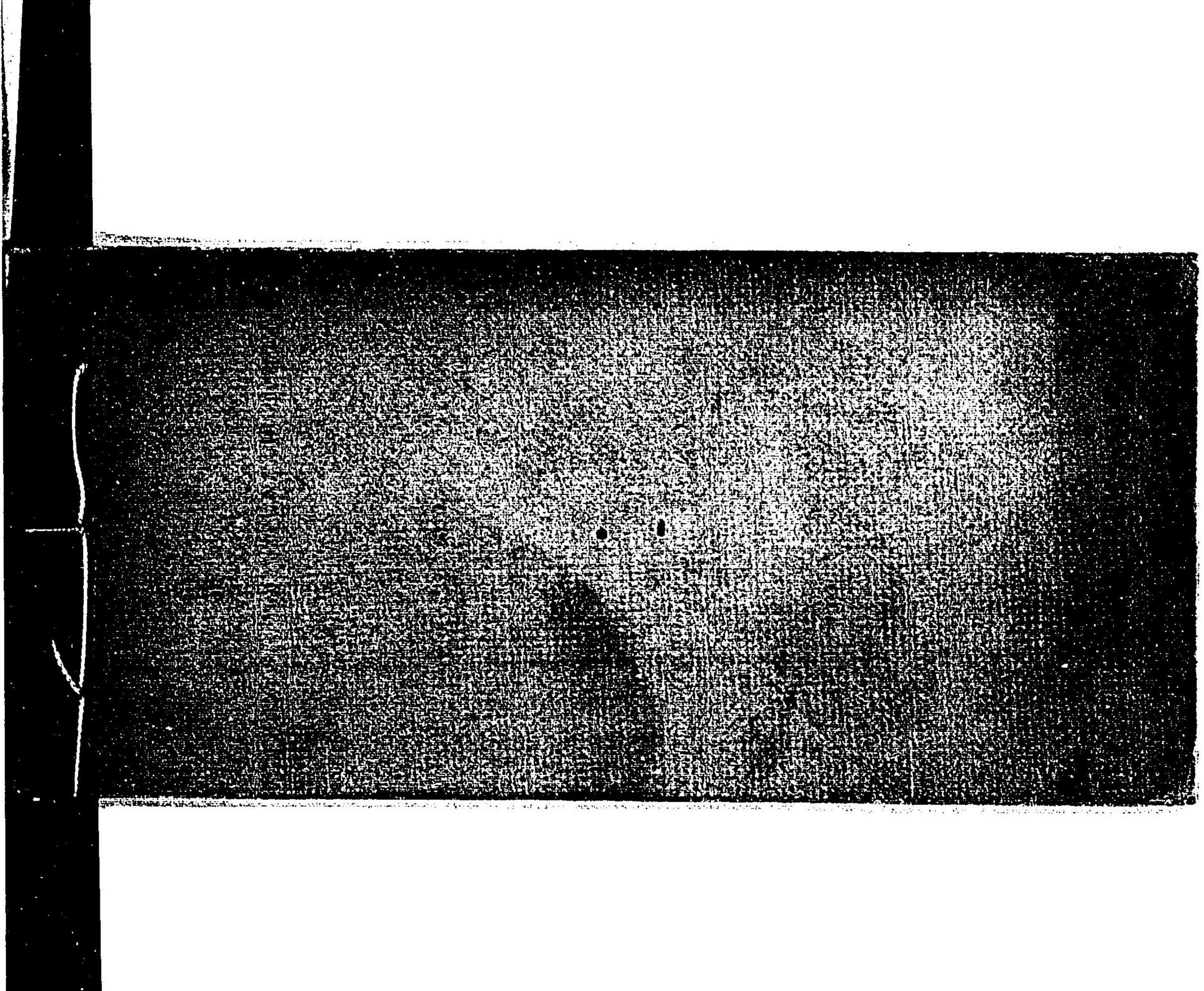
過謂準曰何故不在中書準曰以 朝廷無事北門鎖鑰非準不可耳

鎖鑰ハシヤウマイニ北ノ方 ノシマリト意

補遺

敬馬クヘク喜ブヘシ謝枋得評韓文 云奇々怪々可

喜可 初卷四十張 ヲド口カレ 愕 マタヨロコバル





特58
127